

全明氏博士論文審査要旨

I. 論文の主題と構成

全明氏が提出した博士論文のタイトルは、『中国における公的年金制度の展開と課題－三つの格差問題を中心に－』である。

本論文は、中国における公的年金制度の展開過程を検討し課題を明らかにすることを目的とする。その際に、公的年金制度の展開に対応して、制度間、都市と農村間、地域間の格差が形成されてきたが、その要因と実態を明らかにし、さらに格差是正の政策的対応とその効果を分析しているところに特徴がある。

論文の構成は、以下のとおりである。

序 章 本論文の課題と構成

第 1 章 中国における公的年金制度の展開

第 2 章 都市部における就業者年金制度の形成

第 3 章 年金改革と都市と農村間格差の展開：農民工の加入問題を中心に

第 4 章 公的年金制度における官民格差と 2015 年改革

第 5 章 公的年金制度の地域的断片化と地域間格差

終 章 中国における公的年金改革の展開と課題

参考文献

II. 論文の概要

序章では、中国における公的年金制度改革の背景と研究状況をふまえて、本論文の課題と構成について述べている。

第 1 章では、中国における公的年金制度の形成過程を、計画経済期と体制移行期に分けて比較し、現代的な公的年金制度が導入された背景を分析している。都市と農村の二元的社会構造は改革開放期前後でも変わりはなく、それが年金制度における都市と農村への異なった対応にもつながったことを明らかにしている。

第 2 章では、中国における公的年金制度の中核をなす都市就業者年金の形成及び確立過程を検討している。本章では、1994 年の世界銀行報告に端を発する年金改革の国際的な論争の中国への影響、個人口座の実体化をめぐる省別試行の効果、世界銀行の提起による NDC（見なし確定拠出）方式の中国への適用の可能性について分析が行われている。

第3章では、年金改革における都市と農村の格差の展開を、農民工の年金加入問題を中心に検討している。農民工年金をめぐる地域的及び制度的な展開と、現在の農民工をめぐる年金加入の属性別及び地域別特徴を分析し、農民工年金の課題を明らかにしている。

第4章では、年金制度間の格差を、官民格差に注目して取り上げ、官民格差の是正をめざした2015年改革の評価を行っている。公的年金の所得代替率指標を丁寧に再定義した上で、官民格差是正という国際的動向を反映した2015年改革では、公務員に保険料支払いを義務づけたが、新たに職域年金を制度化し、民間との所得代替率の差は大きく、実質的に官民格差は解消されていないとしている。

第5章では、中国の公的年金制度が全国的制度をふまえつつ、管理運営が省単位で行われるという他国に例を見ない特徴を有し、保険料や給付水準等で地域的格差が生じており、その実態と是正策について検討している。都市就業者年金の地域格差の実態を、ブロック別及び典型地域別に分けて実証的に明らかにしている。そして、都市就業者年金の地域間の年金負担の均衡化を図る目的で、2018年から導入された新たな財政調整制度の内容について分析している。

終章では、公的年金制度の展開に伴って制度間、都市と農村間、地域間の格差の拡大が顕在化し、格差是正への対応が大きな政策的課題となっていることを確認しつつ、論文全体の結論と残された課題について述べている。

III. 論文の評価

本論文の評価点は、以下の諸点である。

第1は、1990年代以降に本格化する中国公的年金改革を、同時期の年金改革の国際的な動向をふまえて検討したことである。年金改革についての1994年の世界銀行報告は、中国の年金制度改革に大きな影響を与えたが、その後のNDC方式をめぐる国際的な検討や公的年金の官民格差是正への取組等も、中国の改革に影響を与えた。それらについて、国際的な政策動向と目配りのきいた既存研究をふまえた検討をおこなっており、中国の公的年金制度の国際的な特徴を明らかにした優れた分析となっている。

第2は、中国における公的年金制度の展開が、制度間、都市と農村間、地域間で格差を形成しながら進行し、それらの格差是正策が年金改革の新たな課題となる過程を鮮明に描き出したことである。農民工の年金加入問題は、都市と

農村間格差の象徴的な現象であるが、制度間格差、地域間格差をも反映している。就業者年金における官民格差は、計画経済期の雇用関係を改革開放期以降どの程度改革できたのかを示している。都市就業者年金の地域間格差は中央政府としても看過できず、新たな財政調整制度を導入するに至っている。中国における年金制度の展開過程を、各種の格差がどのように形成されているのかを実証的に明らかにし、そうした格差是正策が新たに展開される過程として描き出すという点で優れた分析となっている。

第3は、中国の公的年金改革の展開過程の検討にあたっての包括性である。計画経済期から現在までの制度的変遷とその実態の丁寧な分析のみならず、1990年代以降本格的に年金改革が展開される過程で、各地域でおこなわれた年金改革の試行についても、その内容と効果が分析されている。都市就業者年金の個人口座実体化へ省別試行の検討や、農民工の年金加入への各地域での対応とその効果等の検討は優れている。

IV. 結論

本論文は、中国における公的年金制度改革の展開過程を、国際的な年金改革の動向をふまえて検討し、年金制度の進展が各種の格差を生み出し、その是正策が展開されるという文脈で特徴を描き出し、さらに年金改革の地域別の改革試行についても目配りのきいた分析をおこなう等包括的な検討となっており、当該分野における優れた研究と評価できる。本論文を、博士論文として合格と評価するものである。